

「ニッポン1億総活躍プラン」の出発である。全国を回っている」と、そう言われても、この年齢では働く場もないし」と言われることもある。その度に私は「会社で長時間働いて稼いでください」という意味ではなく、職場、地域、家庭などで持ち味を生かし、一隅を照らす生き方ができるよう心合わせしましょうということなんです」とお答えしている。

「隅を照らす」とは高僧、最澄の言葉だが、同時に日本人の生き方をよく表している言葉だなぁとも思っている。「はたらく」は、傍を築にすること。周囲を照らして自分も幸福感をいただくことであり、会社での長時間勤務だけが働くことでは

## 周囲を照らす「活躍」の仕方

いことは、長きにわたって日本人の人生観であったと思う。

現在、高齢者の7割近くが65歳を超えても働きたいと願っているのに対し、実際の就業は2割止まりである。先進国で最長レベルとされる長時間労働の是正や非正規雇用の待遇改善、定年延長など多様で効率の良い働き方改革を実現し、社会にほほ笑みを広げたい。

昨年夏は「ゆう活」スタートの夏でもあった。霞が関の役所でも早出の人は朝7時半出勤、夕方4時15分に退庁も可能とし、夕刻からを趣味や家族の時間に使えるようにした。当時国務大臣の職にあった私は「早出した人は遠慮なく帰ってください

### 参院議員 山谷えり子



〈やまたに・えりこ〉サ  
ンケイリビング新聞編集  
長、国務大臣(国家公安委  
員長・拉致問題担当)な  
ど歴任。1男2女の母。

い」などと声かけをして回ったものであった。

「ゆう活」の実施中には私が書いた料理本が回し読みされ、「あのレシピ作った？」と男性職員同士でイクメン料理話が広がったのも面白かった。そういえば明治初期に来日した女性旅行家イザベラ・バードは「日本の男性は家族生活を楽しんでいる」「日本の子供は朝から晩まで幸せらしい」旨の紀行文を記している。

い、たのくるしい。育児はもつとたのくるしい」と茶目っ気たっぷりに返されたものだった。ところで私が少々無理をしても働き続けようとした理由の一つに、中学時代に父が失業し借金を背負って故郷を離れ、母が過労とストレスで失明したという体験が影響していると感じることがある。母に代わって台所に立ち、「人生はままならぬもの、大黒柱も簡単に折れる」と慨嘆した日々が、私を少し用

### ■ 解答乱麻 ■

私事になるが、若い頃に3児を育てながら生活情報紙の編集長を務められたのは、会社の理解と通信社勤務の夫が早朝勤務や土日出勤などをしながら家事、育児の面でも支えてくれたおかげであった。幼稚園のママたちと子育てを助け合ったことも大きい。子育てがラクチンであった時代はこれまでもこれからもないであろう。子供たちが幼かった頃は、次女を抱っこ、長男をおんぶ、長女の手を引いて夕食の買い物に出かけてフル回転だった。子供の看病で眠れぬ夜もやせ我慢で乗り切るしかない。作家の遠藤周作さんに「もう大変なんですよ」と訴えると、「人生は楽しい、苦し

心深いリアリストにしたのかもされない。その後、父は日本初のラジオのパーソナリティーとなり、ある日、目に光が戻った40代の母に「いつまで家にこもっているの? 人生80年、あと40年あるよ」と語りかけたという。母はその一言に奮起し、大学に通って資格を取得し、88歳の今も働いている。

「ヤママタニもあるがシンペイするな。山谷親平」とマイクの前で話していた父は今年三十三回忌。子煩悩だった夫は十三回忌。今も私の心の中で生き続け、家族の背中を押すという「活躍」をしてきている。「活躍」の仕方はなかなか深い、く広いものという気がする。